

Vol.6

院長 関の
Face to Face

2008年 12月 1日発行



「むちうち」は皆さんよく耳にされると思っています。正確には外傷性頸部症候群といいますが、頸(くび)がムチのようにしななって発生することから「むちうち症」と呼ばれています。
この症状の多くは交通事故などの追突事故によって発症します。頸は脳に近く、また末梢神経の元ともいえる場所です。抹消神経は頸や背中を通って全身に枝分か

後々つらい「むちうち症」初期判断が大切です



れしていくため体の様々な機能に支障をきたすのです。むちうち症の恐いところは、受傷直後にはあまり自覚症状がないことです。たいていは一日〜二日後から徐々に症状が現れ、だんだん悪化していきます。事故直後の心理というものは、自分は重症ではない」と思いた

いものですが、自己判断せず、必ずすぐに病院で診てもらうことが重要です。後に因果関係をめぐって様々なトラブルに発展する恐れがあるからです。ただレントゲンなどにはつきりした異常が現れることはまれで、自覚症状だけがしつこく残る状況が多くみられます。
このような場合は自律神経のバランスを整え血流をよくすることが大切です。
刺激の少ないマッサージや優しい鍼治療などが効果を発揮する場合があります。
是非お試しください。

関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・鍼灸院・
整体院 院長

代替医療の総合治療院としての
確立を目指す

タイトルの face to face は患者
さん自身と向き合っ
て患者さんの
症状と戦うことを願ってつけ
た
* 毎月1日の発行です